

協立電波サービス、都内でセミナー開催

衛星通信サービスを提供している協立電波サービス（東京都港区）は6日、都内で「イリジウム・Pilotセミナー」を開催した。

高山譲社長が冒頭のあいさつで「最近インマルサットL帯中心の衛星通信市場からKu帯、Ka帯といった新しいサービスが目白押しだ。L帯による安価な通信料金と小型で低廉な端末による『イリジウムPilot』はバックアップとして一定の需要が見込まれ、世界的にも稼働数を伸ばしている」と述べた。

セミナーでは始めに、総務省基幹・衛星移動通信課の内藤茂雄課長が『海上無線等をめぐる政策動向』と題し、海上における遭難および安全に関する制度であるGMDSSやESV（船上地球局）、Ka帯を用いた海上ブロードバンド衛星通信と衛星AISの実用化などにつ

いて、総務省の取り組みを紹介した。

続いてイリジウム社の関口和浩地域担当部長が、今月16日に打ち上げが予定されている次世代衛星NEXTを紹介し、同社が2018年にサービス開始を予定しているL帯による高速サービス（Certus 下り最大1.4Mbps）の概要とGMDSSの提供に関して説明した。また、協立電波サービスは実装状況を紹介します。インマルサットFからの移行とインマルサットFBのバックアップ利用の2つの事例を示した。「PilotはFBと異なり、より小口の料金プランを1カ月単位で契約できる」とし、現在使用中のFBからの換装やESVのバックアップ利



セミナーの様子

用にも優れていると強調。「現状ではESVとPilotが最適な組み合わせ」とした。

最後に、古野電気がイリジウムの「SBD（ショートバーストデータ）」の活用方法をヨットレースにおける位置情報把握の利用例の映像とともに紹介した。

セミナー後には懇親会も開催された。